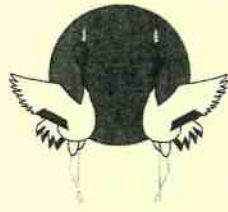


わが街の人間国宝



昨年10月、文部科学省の告示により、7名の人間国宝が誕生しました。そのお一人が上池台在住の刀剣研磨の25代本阿弥光洲（号）氏です。年頭にあたり心からのお慶びを申し上げます。一昨年1月に洗足区民センター第二回土曜講座の講師をつとめられましたが、『本阿弥家が紡ぐ日本刀の美と心』のお話は、とても印象深く今も鮮明に記憶しています。

居住いを正し、一礼で始まる日本刀の作法の実演、豊臣秀吉から拝領した「本」の山鉄による印が捺印された折り紙の観賞もあり、一瞬で魅了された一人です。室町時代から続く家伝の“刀剣研磨”の技法を人間国宝であられた父日洲氏より体得され、奈良春日大社の御神宝、国宝・重要文化財の手入れをなさっていらっしゃいます。

こんなに身近なところに肅々と日本の伝統を守り、支えていらっしゃる方の存在は私達の大きな喜びです。

来たる3月15日（日）洗足区民センターで、東京芸術大学教授原田一敏氏と人間国宝本阿弥光洲氏とのお二人の対談及び日本刀作法の実技が企画されています。是非皆さまのご参加をお勧め致します。

厳しい自然の猛威に明け暮れた日本列島でしたが微動だにせぬ日本伝統文化の美の底力に大きな勇気を頂いて、今年も一歩一歩ふれあい雪谷100号に向け、編集も前進していきたいものだと思います。皆さまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。

参考本「大田区図書館」ホームページ資料の検索で「刀剣」「日本刀」「刀工」等入力してご覧下さい。お近くの図書館でも取り寄せが出来ます。

（池の台・柏三八子）

青少年対策雪谷地区委員会 講演会が開催されました！

昨年11月22日（土）雪谷特別出張所にて、青少年対策雪谷地区委員会主催の講演会が開催されました。

今回は1964年東京オリンピックにて体操競技団体銅メダルという快挙を遂げたオリンピック選手小野清子氏を迎え、当時のオリンピックの様子やスポーツを通して見る子ども達の姿等のお話しをして頂きました。

遠忌題目塔と終活

終活が現在盛んです。では江戸時代はどのようなのでしょうか。

大田区内には池上本門寺があることで多くの日蓮宗寺院があり、山門周辺に遠忌（日蓮聖人五十年毎の年回忌）題目塔が建立されています。

一例として当山を取り上げ説明致します。基壇は三段で、二段目に林昌寺、三段目に石経塚と刻まれ、その上に塔身（棹石）を乗せ、正面に題目、裏面に明和八歳辛卯、十九代日秀。右側面中央に高祖日蓮大菩薩、その右に奉唱満漸、千部成就。左には五百遠忌供養塔と彫られています。

一般在家の人に法華経を通読することは容易ではなく、そこで法華経の六万九千三百八十四文字を七万字と見做して、題目の七字で割ると一万となり、一万回の唱題で法華経一部を読誦したことになり、僧侶が読んだ功德に等しくなります。

ですから、千部成就とは一千万回の唱題となり、大変な時間のかかる修行となります。左側面はその造塔趣旨を受けた語句が刻まれ、これだけの精進をしたのなら共に佛になれると表現されています。今回の案内を参考に題目塔を巡拝し、刻まれた語句などと共に、先人の心にふれ、終活の大きな支えにしてみても如何でしょうか。

（林昌寺住職・松下正雄）



編 集 後 記

あけましておめでとうございます。自然災害のない未来のような穏やかな一年間を過ごしたいものです。年の初めは昔を思い起こし未来に夢をはせます。本号の「道々橋」と「笹丸橋」は懐かしい日々と明るい未来を語っています。また、「災害に強い」街づくりには共助が大切、まずは「明るいあいさつ」から。

（東中・秋山一雄）

ふれあい雪谷（創刊・平成2年（1990）12月20日）年4回発行
（1月・新年号／4月・さくら号／7月・あさがお号／10月・もみじ号／の1日発行）
【発行日】平成27年（2015年）新年号 1月1日（通巻・第97号）発行
【発行】地域力推進雪谷地区委員会【編集】「ふれあい雪谷」編集委員会
【連絡先】雪谷特別出張所
〒145-0065 大田区東雪谷3-6-2 電話3729-5117 FAX3729-1826

http://www.city.ota.tokyo.jp/chofu/ts_yukigaya/index.html

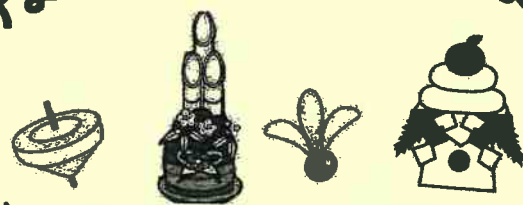
ふれあい
雪谷

平成27年 1月 新年号 通巻第97号



雪谷石川台・橋本順子さんの作品

あけましておめでとうございますー



今年もよろしく願いたします

年男・年女 今年の抱負!!!

年男年女の数居る中で48歳の私が抱負を語る機会をいただき、感謝申し上げます。飛躍の馬年に続き羊年の本年は、羊のように向かうべく足並みが揃う年だと期待します。

災害に強い町づくりを町に住む皆様と一緒に築き直す為に、努力することを本年の抱負にします。自助の推進が最大の防災活動であることを共有認識にしましょう。

(希望ヶ丘・防災部副部長)

72歳になりました。私は20年間、管理人の仕事をしていました。その間沢山の人の真心に支えられ無事第二の人生をスタートする事ができました。

再スタートの時「今度は私が真心のボランティアを」と心に決めました。自治会の女性部に入り、防災部員として地域安全、パトロールにと忙しく楽しく参加しています。年を重ねる喜びを感じ、元気に動ける事に感謝の毎日です。

(希望ヶ丘・木村ヤス子)

スポーツ都市宣言記念事業第31回大田区民スポーツまつり 雪谷地区9自治会スポーツまつりのご報告

平成26年10月5日(日)小池小学校にて今年も雪谷地区9自治会スポーツまつりが開催されました。当日は雨の為、体育館で午前中だけの開催となりましたが、小さいお子さんから年配の方まで、1,000名を超える方に参加して頂き、自治会対抗として今年も盛り上がりました!!

優勝:石川台自治会 準優勝:小池自治会 第三位:南雪谷自治会
参加・ご協力ありがとうございました!!

明るいあいさつ 心をこめて

この「明るいあいさつ 心をこめて」という言葉は、私たちの学校の合言葉です。子どもたちは1年生から6年生まで全員校帽(黄色い帽子)を登下校の時に、また遠足や見学等に出かける時に被っています。そのキャップ型の帽子のつばに手をかけて、さっと取ってあいさつするのは、甲子園の高校球児のあいさつの爽やかさとなったか通じるところがあります。



さて、この「明るいあいさつ 心をこめて」はなぜ必要なのでしょう。以前に、お菓子メーカーの社長さんの講演を聞いたことがあります。そのときに、「従業員に必要なのは、あいさつができること、掃除ができること、履物がそろえられることです。」と話されていました。これができれば、仕事のあらゆることができるということです。仕事の基本になるということなのです。

これと、全く同じことを知り合いの社長さんも話していました。「まず、新入社員にあいさつと掃除の仕方を教えます。」ということです。そのために、研修に行かせるそうです。研修には高額の費用がかかります。でも、それだけのことがあるということなのです。

研修を終えて帰ってくると、あいさつの声から違ってくるそうです。「おはようございます。」の一声から職場の雰囲気、がらりと変わるそうです。そこから、本人のやる気もでてきて、周りの人への影響や効果も大きいのだそうです。

「掃除ができる。掃除の仕方を知っている。掃除を進んでやる。」ということは、先ほど申し上げた仕事の基本です。仕事の準備のため、必要なことを整えること、仕事を段取りよくすること、後片付けをすること、このようなことが掃除をする中にふくまれていますし、掃除を進める中に「心をこめて」が当然入ってくるからです。

もう少し、小学校の時からあいさつをすることを考えてみましょう。それは、あいさつをできるようになることは、子どもたちの将来のために必要不可欠なことだからです。

これから子どもたちは、様々な世界に飛びこんでいくことになります。新しい世界に行ったとき、まずやるのがあいさつです。自分がこれからお世話になる人々へのあいさつです。このあいさつ一つができるかできないかで、その人の人生が変わると言っても過言ではないでしょう。どれだけの人が自分を気にかけ、力になっていただけるか、その始まりがあいさつなのです。そのために、今のうちから「明るいあいさつ 心をこめて」できるようにしておきたいのです。

(小池小学校校長・五十嵐則也)

私の思い出

～道々橋に映画撮影スタジオがあった!～



ここ雪谷地区は湧き水や呑川の清流で、豆腐製造や造り酒屋があり、呑川も今は護岸工事で直線に近い流れとなっていますが、昭和の初め耕地整理前までは蛇行しており、私の現在の家の前、戦災で焼けた元の家の横に呑川の流れがあって、食事の後の茶碗なども井戸があるのに水が良いのでこの川で洗っていました。

また、元の家の上流に田畑に水を灌漑するための堰があり、上流の水車の動力で供給して仕事が終わると板を取り外すので一気に水が流れ、お釜・鍋・茶碗などが下流に流され拾いに行ったこともありました。

今の新幹線のガード下あたりには珍しく緑色をした淡水シジミが取り、みそ汁に入れて美味しく食べた物です。

仲池上の道々橋交番の前、今のパルシステム大田センターと日本ロジテムのところに太平洋戦争中は軍需工場があり、昭和20年に戦争が終わると映画の撮影所「三幸スタジオ」が出来ました。夜になると煌々と電気がとまり、あー今日も映画の撮影をしている、と農作業の手伝いが終わってからよく見に行ったものです。

映画の撮影で覚えているのは美空ひばり主演の「リンゴ園の少女」《昭和27年(1952)松竹映画製作》です。

また、スタジオ近くの方はエキストラで出演することもあり、何の映画撮影かわかりませんが、大阪の道頓堀の町並のオープンセットもありました。若い頃の思い出です。

(東雪・直井勝太郎《昭和4年生まれ》)

土地利用の移り変わり

昭和22年に私ども一家が東雪谷へ引っ越してきた時、ほんの30m程東のその土地には20戸近い日銀の社宅が建てられていました。

笹丸自治会誌「笹丸」によれば、その東雪谷1-5にある1000坪程のその土地は、昭和初年には畑地で、昭和13年以前に現在と同じ区画内に家屋が建てられたものの、20年5月24日の空襲で消滅し、戦後日銀の社宅として再建されたそうです。その後、社宅は戸建住宅から2棟の集合住宅になり、更にその後警視庁の職員社宅として現在ある7階建の「東雪谷住宅」に建て替えられています。

ところが先頃建設の詳細が公表されたりニア新幹線がその土地と私の家の直下数十メートルを通ることになり、東雪谷住宅の敷地全体を利用して直径30mの非常口が造られる計画だそうです。完成は20年程先のことで、年齢的には無理かも知れませんが見てみたいものです。

ところで私の家の敷地はというと、終戦直後に作られた計画で、将来道路になることになっていますがその気配は見えません。

どの土地にもそれぞれ利用の変遷がありますが、そこに係った多くの人々の生活の移り変わりにも併せて想いをたすと感慨深いものがあります。

(笹丸・浜辺修二)